

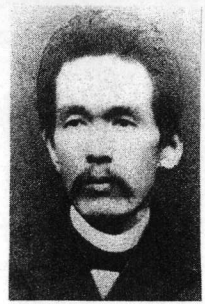
井上毅 いの上、官僚。天保十四年十一月肥後國生れ、明治二十八年二月十五日歿（八四二九）。舊姓飯田、幼名多久馬。號格陰。藩費時習館に學ぶ。明治四年司法省出仕、翌年渡歐。大政官大書記官、内務大書記官を経て参事院議員。十四年「憲法綱領」を作成、のち伊藤博文の下「帝國憲法」の起草に従事。二十一年法制局長官、樞密院書記官長、二十二年元田永孚と「教育勅語」草案を作成。樞密院顧問官、文相歴任。子爵。

譯著書、ビエナラン（ナドール、ド、ビエボン）著「春是春敵論」全二册（譯、明治十八年九月農商務省藏版、大日本農會）、内外「權考」憲法沿革之一（明治二十一年九月十二日哲學書院）、孝子「貞女（家庭教訓）」（合著・鹿島生編、大正二年一月）「百求光圖書店」等。

文獻、國學院大學圖書館調査室「格陰文庫整理委員公編」格陰文庫自録（昭和二十八年十一月西日國學院大學圖書館）、ヒゼン・ピタウ著「井上毅と近代日本の形成」（昭和四十一年五月一日時事通信社）等。

「大日本帝國憲法」文獻、大日本帝國憲法（明治二十二年二月金松堂）、帝國憲法「議院法・衆議院議員選舉法」（平假名附）（明治二十二年）二月十日金泉堂、國自登四郎著「大日本帝國憲法上解」

附屬諸法典「附日本憲法史」（明治二十二年）二月十八日博文館「實用教育新撰百科全書」（、國自登四郎解釋「大日本帝國憲法」（明治二十二年）二月十九日



會刊、二香堂、横山徳太郎編「大日本帝國憲法」議院法衆議院議員選舉法 同附録（明治二十二年）二月十九日岐章・時事新報社「時事新報」（

- 其村二郎著『帝國憲法正解』(明治二十二年二月) 千七百石川商店)、
外川秀治郎著『論議帝國憲法』(內題「論議帝國憲法詳解」明治二十二年二月) 千七百大阪・日盛館)、安江靜著『帝國憲法詳解』(附議院法、衆議院議員選舉法、計法、貴族院令、皇室典範) (明治二十二年二月) 一百大阪・赤松市大郎刊、殿々堂本店發賣、殿木二郎註釋『大日本帝國憲法詳解』(明治二十二年二月七日鈴木金次郎刊)、城數篤著『日本憲法詳解』(內題「日本帝國憲法詳解」明治二十二年二月十八日出版編・共和書店)、高田早苗著『論大日本帝國憲法詳解』(明治二十二年四月十六日東京出版會社藏版、大阪原忠藏・石塚徳次郎刊)、伊藤博文著『帝國憲法義解』(明治二十二年四月) 千四百國家學會)、皇室典範義解(明治二十一年四月) 千四百國家學會)、有賀長雄著『帝國憲法編』(明治二十一年四月) 千四百國家學會)、牧野善兵衛刊、皇室典範義解(明治二十一年四月) 千五百原亮二郎刊)、伊藤博文著『帝國憲法義解』(明治二十二年六月一日國家學會、丸善閣社書店・金港堂、博聞社・哲學書院、美濃部達生著『憲法概要』(大正十一年四月) 千四百有斐閣)、上杉慎吉著『憲法讀本』(昭和二年二月十五日本評論社)、清水澄著『大日本帝國憲法略解』(昭和四年七月十五日本放送協會關東支部)、上杉慎吉著『帝國憲法逐條講義』(昭和十年五月十五日本評論社)、寬克彦著『大日本帝國憲法の根本義』(昭和十一年六月一日皇室學會、再刊、十五日本岩波書店)、清水伸著『獨撰於ける伊藤博文の憲法以調と日本憲法』(昭和十四年十月十四日岩波書店)、伊藤博文著『憲法義解』(宮澤俊義校註、昭和十五年四月十五日本岩波書店「岩波文庫」)、清水伸著『帝國憲法制定會議』(昭和十五年十一月五日本岩波書店)、宮澤俊義著『憲法略說』(昭和十七年四月) 千三百岩波書店) 等。

「教育に關する勅語」文獻、内藤耻史解釋『勅語語釋』(明治二十二年十一月十八日青山清吉刊)、關口隆正著『聖諭訓義』(明治二十二年十一月五日靜岡・金蘭閣書店)、内藤耻史著『勅語俗訓』(明治二十二年十一月一日千二二青山堂主編金)

四年二月十日刊、治園書院梓、大阪・岡倉眞七發兌)、末松謙澄著『勅諭修身經詳解』(明治二十二年十一月九日瀟翠書閣藏版、金港堂發兌)、同『勅諭修身經階梯』(二版・明治二十六年二月八日精華舎)、重野安繩著『勅諭衍義』(七版・明治二十年九月二十日刊)

喜右衛門、甚七刊、堂屋敷竹次郎著『實踐教育勅語真髓』(明治四十四年七月一日林江書店)、渡邊慶壽著『二人勅語實踐資料』(再版・大正九年十一月二十五日教育勅語實踐會)、木多白生著『教育勅語と思想問題』(大正十年九月二十五日統一發行所)、教育勅語鑽研會撰『教育勅語十五大詔勅』(昭和五年九月五日刊)、山本良吉著『勅語四十年』(昭和五年九月二十日教育研究會)、國民精神振興會編『教育勅語物語』(昭和五年九月二十五日日本各書刊行會)

『教育勅語畫解』(昭和五年九月二十八日教育勅語聖旨普及會)、加藤耻史著『教育勅語の現代の考察』(昭和五年十月十日精神社出版部)、田中隆二著『教育勅語の御精神と拝察』(昭和五年十月十日文部省)、岡本遺一著『教育勅語の時代思想的解釋と新説話』(昭和五年十一月十日日本教育學會)、葛城理平著『教育勅語史源考釋』(昭和六年七月十八日神奈川・周學會)、北村澤吉著『教育勅語と其の甚淵』(昭和九年七月二十五日廣島・廣島文理科大学同志會『尙志教育叢書』)、木涼吳澤著『教育勅語と我等の行道』(昭和十年二月十一日教育勅語

川林、神原、野田九浦著、飛田周山、磯田長秋、

友治、甚七刊、實踐、教育、明治、四十四年七月、

大正、九年、十一月、二十五日、教育、研究、會、國民、精神、振、興、會、編、

昭和、五年、九月、五日、刊、山、本、良、吉、著、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

大、正、十、年、九、月、二、十、五、日、統、一、發、行、所、

普及會)、渡邊幾治郎著『教育勅語演發の由來』(昭和十年十月十二
日學友會館)、川村理助著『教育勅語講話』(昭和十一年二月二十日
培風館)、小野正康著『^{改訂}教育勅語詳解』(昭和十五年四月一日研究
社「研究社學生文庫」)、吉田熊次著『教育勅語と我が國の教育』(昭
和十五年十月二十日教學局「教學叢書」)、鈴木文正著『教育勅語奉
讀篇』(昭和十六年七月十日大和「直製作所」、教學局編『教育の關
する勅語演發五十年記念資料展覽圖録』(海後京臣解説、昭和十六年
八月二十日內閣印刷局)、井上哲次郎著『^釋教育勅語衍義』(昭和十
七年十月二十日廣文堂書店)、森清人著『教育勅語講話』(昭和十八
年一月二十五日直靈出版社)、井上清純著『教育勅語と臣民の道』(昭
和十八年九月八日富山房)、西晉一郎『教育勅語衍義』(昭和十九年
九月二十日朝倉書房)、^{加藤地}中野勅之祐著『教育勅語、を讀む』(昭和五
十九年十月一日二修社)等。